

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立福田小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0203
岡山市南区古新田1095番地
E-mail fukudas@city-okayama.ed.jp
Website http://www.city-okayama.ed.jp/~fukudas/
幼児児童生徒数 男子 415名 女子 400名 合計 815名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域との連携」を活動テーマとして、ESDを学区地域の連携を支えるものと捉え、ESDの実践を通して学区を愛し学区のために貢献できる児童の育成を目標とした。

具体的には、地域学習を柱に、① 地域の人に係わる活動、② 地域の物に係わる教育、③ 地域の事柄に係わる学習、④ 地域に貢献する活動を行った。

① 地域の人に係わる活動

1年生139名が、10月19日(木)、どんぐりや松ボックリ、すすき等を使った造形遊びやおもちゃづくりを、ふれあい名人さん9名に教えていただいた。また、11月17日(金)、4年生136名が、学区の竹を使ったおもちゃをふれあい名人さん8名に教えていただきながら作った。事前に、子どもたちが使う物を集めたり、竹を加工しやすいように切ったり割ったりして、当日はふれあい名人さんとふれ合いながらおもちゃ作りや竹細工を楽しんで行うことができた。

12月8日(金)、6年生114名が、戦争を体験したふれあい名人さん2名から、戦争体験の話を通じて直接聞く機会を設けた(図書館)。戦争の悲惨な様子を体験者から生の声で聞くことができ、平和について考えることができた。

② 地域の物に関わる教育

11月16日(木)、6年生114名が、学区の史跡巡りをしながら、学区の歴史についてふれあい名人さん2名に教えていただいた。その後、他の史跡を巡る子どもたちの姿が見られた。実際の史跡に触れ説明を聞くことで、学区の歴史に関心をもち理解を深めていくことができた。

③ 地域の事柄に関わる学習

1月23日(火)、2年生145名が、竹トンボやけん玉、お手玉、おはじきなど、ふれあい名人さん14名・保護者ボランティア13名に、体育館や特別教室、教室などを使用して、昔の遊びを教えていただいた。コツを教えていただくことで、生活科でおこなってきた単元「〇〇名人になろう」に一步近づくとともに、地域の方の知恵や工夫を体感することができた。

1月31日(水)、3年生各教室に各一人(計4名)のふれあい名人さんから、昔の生活を教えていただいた。社会科で、これまで調べてきた昔の物や暮らしについての疑問に対する質問をすることもでき、地域の年配の方の知恵や工夫を知ることができた。

6月9日(金)、5年生149名が、元JA職員のふれあい名人さんから福田の農業の特色や移り変わりを教えていただいた(体育館)。その後、バケツ稲をそだてた。JAの方に稲の育て方を聞いたり、収穫後のもみすり等を見せていただいたりした。バケツ稲作りを通して農業に関心をもち、稲や農業について調べることで、学区の産業や農業についての理解を深めることができた。

④ 地域に貢献する活動

地域に関わっていこうとする意欲を向上させるため、地域行事でのボランティアを募った。「夏まつり福田」の「放送ボランティア」「太鼓ボランティア」「出店ボランティア」、福田幼稚園の「運動会ボランティア」、社会福祉協議会主催の「赤い羽根街頭募金ボランティア」、「3世代キラリ交流会」の「放送ボランティア」「肩もみコーナーボランティア」等、昨年度以上に児童の参加できる機会を増やした。



① の写真(1年「秋ランド」)



② の写真(6年「史跡巡り」)



③ の写真(2年「昔遊び」)



④ の写真(「赤い羽根共同募金ボランティア」)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校長が作成する教育基本計画の中に、指導の重点の一つとして、「持続可能な社会づくり」を位置付けている。これをうけて、総合的な学習の時間や生活科の学習を中心にして、ESDとしての年間指導計画を各学年で作成している。年間指導計画をもとに、その年度の学年団が詳細を検討している。前年度の取り組みを前年度の担当者から聞き取り、実施方法を検討して実施している。その実績を年度末に各学年で振り返り、年間指導計画の見直しをしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ふれあい名人さんとの折衝や顔合わせの会など、教頭が窓口となり、応援をお願いしている。また、「ふれあい感謝の会」を設定し、お世話になったふれあい名人さんに子どもたちから感謝の気持ちを表すようにしている。

地域へ貢献する活動では、ボランティアの場を校長・教頭が地域から募り、教頭が中心となってボランティアの募集や活動を支援している。今年度から、地域担当の教員が活躍する場が増え、持続性が向上した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価のアンケートの中で、ESDに関する調査を児童・保護者・教職員へ行っている。「地域の人に進んで挨拶をしている。」「地域の行事に参加している。」「今住んでいる地域や歴史に興味や関心がある。」「名人さんと一緒に勉強するのが楽しみだ。」等のアンケートの中で、向上した項目がいくつか見られた。また、ボランティア活動への児童の参加が多くなっており、嬉しく思っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

廊下に各学年の活動の様子を掲示したり、「ふれあい感謝の会」でふれ合い名人さんに昔遊びの技を披露したりしている。また、「岡山子どもESDフォーラム」配布冊子にESDの本校の活動概要の原稿を投稿したり、「おかやまっこ未来フェスタ2017」に本校のESDの活動をパネルで掲示したりした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクール活動支援助成金ヒアリング等で、岡山市ESDコーディネーター・岡山市ESD推進課・岡山市教育委員会指導課の方々から、中学校区のESDの活動についての報告をしたり助言をいただいたりした。ユネスコスクール推進校連絡協議会で、ESDの研修をしたり、他の学校との情報交換を行ったりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

上述のユネスコスクール推進校連絡協議会以外では、中学校区以外の学校との交流はしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

昨年度以上に多くの児童がボランティアに参加することができていた。地域に「貢献」できる児童を増やすことが、中学校との接続を強くし、将来の地域を担う人材を育成する事へつながっていくことになると思う。

また、多くの教職員が地域活動に参加した。今年度から、地域担当を明確にし、地域担当教員が中心となって地域行事の企画・運営に関与したりボランティア児童に関わったりすることができた。地域担当教員の配置により、地域行事への学校対応力の持続可能性が向上した。

児童や教職員の参加が増えたことを地域はとても好ましく思ってくれている。学校と地域との良い関係性を持続させたい

※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度に引き続き、「地域との連携」を活動テーマとして、地域学習を進める。地域の人・物・事柄に関わる活動は、今年度の活動をベースにして H30 年度も継続する。

地域に貢献する活動は、地域のニーズを聞きながら、ボランティア活動の場をさらに増やしていきたい。また、学校へ働きかけてくれる地域の方々への児童の感謝の気持ちをもっと身近に感じてもらえるような活動をして、地域を愛し地域から愛される学校へしていきたい。